

名寄高新聞

カーリング特集

北海道名寄高等学校新聞局

2021. 1. 15

発行責任者 宮崎 桃佳

日本ジュニアカーリング:みちぎんスタジアム

名寄協会J.Cが3位

三浦さん、佐久間さんが活躍

第29回日本ジュニアカーリング選手権大会が11月17日から22日まで、青森市のみちぎんドリームスタジアムで開催された。スキップ・三浦由唯菜さん(1B)とリード・佐久間優名さん(1B)が所属する名寄協会J.C(以下「名寄協会」)は健闘をみせて3位となり、見事メダルを獲得した。

今大会には各地区の予選を勝ち抜いた8チームが出場。予選は8チームによるリーグ戦が行われ、上位4チームが決勝トーナメントに進出する。

予選は5勝2敗の3位

名寄協会は予選1戦目で優勝候補のSC軽井沢クラブJr(以下「軽井沢Jr」)と対戦。第1エンドは不利な先攻となり、いきなり2点を奪われる。第2エンドで



練習場で(左から)三浦由唯菜さん、佐久間優名さん、松永愛唯さん(旭川西)



高い集中力を維持しながらショットの練習をする三浦由唯菜さん

【名寄協会 JJクレッシェンド】

今大会に名寄協会J.C代表として同協会所属チーム「JJクレッシェンド」が出場。リード・佐久間優名さん(1B)、セカンド・高橋佑奈さん(下川商業高校2年)、サード・松永

愛唯さん(旭川西高校1年)、スキップ・三浦由唯菜さん(1B)のメンバーで、全員が名寄東中学校出身。

サンピラーパーク・カーリングホールへの取材時、高橋さんは練習に参加していなかった。

1点を返すが、第3・第4エンドでもそれぞれ2点ずつ奪われ1-6。それでも第6エンドに2点を取り意地をみせるが、第7エンドで1失点し3-7。最終の第8エンド前にギブアップして初戦を勝利で飾ることはできなかった。

予選2戦目は今大会優勝の札幌協会と対戦。第1エンドは先行となったが、氷の読みに勝る名寄協会が力を発揮。2点を奪い好スタートを切る。名寄協会は第4エンドでも1得点し3-0としたが、第5エンドで3失点し3-3の同点とされる。し

かしここで、名寄協会は集中し直してプレーに臨み、第6・第7エンドでそれぞれ1得点。最終第8エンドで1失点したが、5-4で勝利し、札幌協会に今大会唯一の黒星をつけた。

札幌協会を破り勢いに乗る名寄協会は予選3戦目でチーム札幌と対戦。前半、第4エンドを終えて3-2とリードするが、第5エンドで3失



目標を定めストーンを放つ佐久間優名さんと三浦由唯菜さん(右)、松永愛唯さん

(裏面へ続く)

第8エンド前にチーム札幌がギブアップしてそのまま勝利を飾った。

白星を先行させた名寄協会はその後快進撃を続ける。予選4戦目はACA青森ジュニアクラブに5-4、5戦目の岩手ジュニアには7-4と連勝。6戦目の青森CA戦は延長第10エンドに及ぶ接戦となったが、6-5で勝利。5勝1敗で、この時点で目標の決勝トーナメント進出を決めた。

予選最終の7戦目では長野CA Jrと対戦。予選突破を決めて集中力を欠いたのか、ショットが安定せず格下相手に2-3でまさかの敗戦。その結果、5勝2敗の3位で決勝トーナメントに進んだ。

準決勝で軽井沢 Jr に惜敗

決勝トーナメント初戦の4位決定戦（敗者



目標を凝視し慎重にショットの動作に入る佐久間優名さん

が4位）は予選4位のチーム札幌とメダル獲得をかけて対戦した。「目標の決勝トーナメント出場は果たしたが、ここまで来たら必ずメダルを持って帰る」と名寄協会のメンバーは闘志を燃やして試合に臨んだ。会場の壁側シートでの対戦で氷の変化が激しく、氷を正確に読むことが重要な一戦となった。

第1エンドは有利な後攻で1点を先取。さらにチームでしっかり氷を読み込み、先攻の第2エンドでも2得点と優位に立つ。6-2で迎えた第7エンドでは、先攻でありながらもショットが冴えて3得点。9-2とすると、最終第8エンド前にチーム札幌がギブアップ。見事な快勝で3位以内を決定した。

続く準決勝では、決勝トーナメントの初戦で札幌協会（予選1位）に敗れた軽井沢 Jr（予選2位）

と対戦。

第1エンドで不利な先攻で1点を先取するとその後も名寄協会がリズムをつかみ、前半の第4エンドを終えて3-1とリードする。しかし、第5エンドで1失点すると、第6エンドも1点スチールを許し3-3の同点。ここで軽井沢 Jr は勢いを取り戻し、ショットの精度も上げてくる。それでも、後に引かない名寄協会は第7エンドで1得点し、4-3と再びリードする。最終第8エンドで1失点しても、同点で延長に入ると第9エンドは後攻となり、名寄協会が有利となる。1失点を覚悟で臨んだ第8エンド。スキップ・三浦さんの最終ショットがやや遅いと名寄協会チームは判断し、佐久間さんらが懸命にスイープする。しかし、

【決勝トーナメント試合結果】

◆ 4位決定戦 (*は第1エンド後攻)

チーム		1	2	3	4	5	6	7	8	合計
チーム札幌		0	0	1	0	1	0	0	×	2
名寄協会JC	*	1	2	0	2	0	1	3	×	9

◆ 準 決 勝

チーム		1	2	3	4	5	6	7	8	合計
SC軽井沢クラブ Jr	*	0	1	0	0	1	1	0	2	5
名寄協会JC		1	0	1	1	0	0	1	0	4

ストーンは予想以上の滑りをみせて、狙った場所より先に進み、相手にチャンスを与えてしまう。すると、世界大会にも出場し経験豊かな軽井沢 Jr は最後の1投を確実に決めて2得点。土壇場で逆転を許し、名寄協会は4-5で惜しくも勝利を逃がした。

それでも全国の強豪たちを相手に堂々の3位となり、メンバーたちはメダルを首にかけて満足な表情を見せた。

プランを替える力が課題 三浦 由唯菜さん

大会前は基礎を中心に練習し、本番に臨んだ。予選最終戦の長野戦は予選突破を決めていたので、やや集中を欠いた。勝っていれば1位か2位で決勝トーナメントに進めたので悔いが残る。試合中は作戦を考え尽くすので、とても疲れた。それでも大会を振り返ると、初めて札幌協会に勝利する

など、色々と成果が多く、充実できた。

これからの課題として、ただドローを決めたりガードを置くというショットは確実性が出てきたが、サードやスキップの最後の詰めがまだ甘いので改善し、状況によりプランを切り替えられる力も身に着けたい。

それにしても、カーリングは楽しい。

北海道ジュニアで優勝目指す 佐久間 優名さん

大会を振り返り、予選は長野戦を除き思っていた以上に戦えた。ただ、ハーフタイムの休憩で気が抜けてしまい、第5エンドで得点されることが多かった。これからはハーフタイム後も気持ちを切らさず、集中力を持続させて臨み、さらにゲームの良い流れを作りたい。

3月末には北海道ジュニア大会があるので、優勝を目指し頑張りたい。そして、次回の日本ジュニア大会では今回以上の成績を何としても収めたい。

カーリングは4人全員がストーンを投げて勝ちにつながっていくことが魅力。小さい子からシニアまでみんなが楽しめる。



力強くスイープの練習をする三浦由唯菜さん(左)と佐久間優名さん